

織井理咲

University of Washington
Paul G. Allen School of Computer Science & Engineering

2024 年 12 月

University of Washington Paul G. Allen School of Computer Science & Engineering の博士課程の 3 年目の終わりの夏学期と 4 年目の秋学期について書きます。

I. General Exam

12 月に General Exam（博士課程のマイルストーン）に無事合格することができ、PhD Candidate に昇進することができました。

「Human-Centered Mobile Health in Resource Constrained Settings」という名の卒論の提案書（今までの研究のまとめと今後の研究企画）を執筆し、5 人の General Exam Committee（教授からなる審査委員）に 40 分間のプレゼンをしました。プレゼン後は一般からの質疑応答（20 分）と Committee による質疑応答（20 分）があり、今後の研究におけるフィードバックをいただくことができました。



II. 学会

11 月にコスタリカ（サンホゼ）開催の CSCW（HCI の分野の国際的なトップカンファレンス）が行われ、採択された論文を発表するために参加しました。750 人が集まっていた。この学会に参加するのは初めてでした。

今回発表した論文は 2 つあります。1 つ目は、2 年前のマラウイでのフィールドワークに関する研究です。HIV クリニックで使われているパソコンやタブレットを活用したヘルスケアに対する医療従事者と政府関係者の観点について発表しました。論文はこちらからアクセスできます：<https://dl.acm.org/doi/10.1145/3637323>

二つ目は、女性が自身の更年期の経験を記録して世代間で共有し合うための支援をする研究です。更年期を経験中、あるいは経験した女性をインタビューし、更年期に関する症状や感情を伺い、更年期中に経験されたことを記録し、次の世代に伝えることを促す手段をデザインしました。論文はこちらからアクセスできます：

<https://dl.acm.org/doi/10.1145/3686975>

また、発展途上国のヘルスケアにおける人とAI（人工知能）の関係性をテーマにしたワークショップに参加しました。少人数のワークショップであったため、午前中は参加者が一人ずつ自身の研究プロジェクトを発表し、午後は各プロジェクトについて議論するグループワークを行いました。私はAIによるケニアの若い女性に避妊法の選択のサポートにおける研究を発表し、今後の研究計画についてフィードバックをもらうことができました。



学会後はラフォルチュナという観光地に移動し、ジップラインや天然温泉などのアクティビティに参加し、コスタリカの自然を楽しみました。

III. 最後に

いつもご支援ありがとうございます。来年も充実した研究生活を送るよう努力いたします。